

【情報理工学部】令和8年度 FD 活動の「年間計画」

1. 今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

(1) テーマ：

生成 AI を前提とした大学教育の再設計

(2) 目 的：

生成 AI を前提とした教育内容・課題設計・成績評価・学修支援・大学業務のあり方を学部全体で共有・再検討する。教員間で実践事例や課題意識を共有し、AI を学生の深い理解や主体的学びにつなげるための活用方法や運用指針を整理することを目的とする。

(3) 期待する効果：

AI 利用を前提とした授業設計や評価方法に関する具体的知見が学部内で共有され、各科目での実践改善につながる。AI 時代に適応した情報理工系人材育成と大学業務の効率化が期待される。

2. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年 1 回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

公開授業：実践 CAD 演習

FD ワークショップ：生成 AI を前提とした大学教育における課題・評価設計

2026 年度に新規開講される「実践 CAD 演習」は、CAD を用いた設計・検証・説明・改善に関する能力の育成を到達目標とする集中授業である。本授業を公開授業とすることで、情報理工学部の教育がソフトウェアやプログラミングに限らず、設計、ものづくり、ファブ리케이션を含む実践的な広がりを持つことを共有する機会と位置付ける。

FD ワークショップでは、公開授業の内容も踏まえつつ、生成 AI を前提とした大学教育における課題設計・評価設計について議論する。特に、AI 支援によって成果物の作成が容易になる時代において、成果物だけでなく、設計意図、検証、説明、改善の過程をどのように課題や評価に組み込むかを検討する。また、AI 機能を持つ CAD や AI 支援によるものづくりの進展も視野に入れ、プログラミング科目、講義科目、演習科目等に一般化した場合の課題設定や評価方法について議論を広げ、学部内で知見を共有する。

(2) その他研修会等：

※ (1) 以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

※この内容は本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。